

169 明治十六年事件退学処分解除者取調照会に付回答案(抄)

[明治十六年十二月二十八日]

総理

同心得

庶務課主任

同 常務掛

(石原助安)

同補助

(服部一三)
幹事 (花押)

左案専門学務局へ御回答可相成乎此段相伺候也

先般本学ニ於不都合之所為有之候ニ付退学セシメ候学生生徒之内今般再入学并ニ官公私立ノ学校へ入学解禁云々之件ニ関シ御照会之趣了承然ル処右ハ委曲取調之上過刻已ニ文部卿へ伺出置候条右ニテ御了知相成度此段及御回答候也

明治十六年十二月廿八日 東京大学総理 加藤弘之

専門学務局長

文部大書記官 濱尾 新殿

先般貴学ニ於テ不都合之所為有之退学セシメラレ候末官公私立ノ学校へ入学禁止相成候者之内解禁之儀ニ付御稟請相成其人名ハ精密取調御申出可相成旨ニ有之候処右ハ尚其情状ヲ詳悉候上御稟請之通聴許解禁可相成省議ニ有之候間右人名并其悔悟之次第犯状ノ軽重等更ニ詳細御申出相成度此段及御照会候也

明治十六年十二月廿八日

専門学務局長 文部大書記官 濱尾 新 印

東京大学総理 加藤弘之殿

(欄外注記 2)

本月十三日付ヲ以テ先般暴行ニ関シ退学申付候学生々徒再入学云々之件ニ涉リ委曲上申致シ置候処別紙〔人〕〔朱書〕〔甲号之二名ハ最初卒先シテ自首致シ候者ニ有之乙号五十八名〕名之者ハ暴行之際モ其所為極メテ輕キモノニシテ且退学相命候以降ハ執レモ

一意謹慎悔悟之実効相顯レ候者共ニ付テハ各来ル十七年一月ヨリ再入学許可致シ度仍而此段相伺候条至急仰 裁可候也

明治十六年十二月廿八日 東京大学総理 加藤弘之

文部卿 大木喬任殿

二伸本文御裁可之上ハ兼而上申致シ置候本人等義御省直轄学校并ニ全国一般公私立学校へ入学禁止之義モ同時ニ被相解候様致シ度此段副申候也

(中略)

旧法学四年生 奥田義人

同 三年生 莊 清次郎

同 一年生 都築初五郎

同 同 梶山源吾

同 選科生 齋藤徳五郎

右之者共過般暴行ニ関スルノ廉ヲ以テ退学被命候処其後實際探索致候へハ右暴行ニ関スル極メテ少ク加之爾後悔悟謹慎罷在候事拙者共ニ於テ保証仕候間何卒再入学御許可有之度此段請願仕候也

明治十六年十二月廿七日

教授 木下廣次 ④
教授 穂積陳重 ④

東京大学総理 加藤弘之殿

(中略)

法学第四年生 奥田義人

法学第三年生 莊 清次郎

太田 保

法学第二年撰科生 斎藤徳五郎

法学第一年生 都築初五郎

梶山源吾

古典講習科甲部生徒 井上政次郎

右奥田義人外六名去十月廿七日ノ暴行ニ関シ候旨を以退学被申
付候者ニ御座候

下シ暴行仕候者ニハ無御座ノ故已ニ受持教員ヘモ其情実ヲ述ベ
可成速ニ入学御許可相成候様御取成被下度旨願出置候儀ニ候得
ハ何卒特別ノ御寛典ヲ以取分ケ速ニ再入学御許可被成下度只管
奉懇願候右七名之内莊清次郎并ニ井上政次郎之両名ハ騒擾中外
出仕居外五名ハ当夜在舍罷在候得共已ニ受持教員ヘモ開陳仕置
候通或ハ病室ニ罷在或ハ中途ニ帰舎外出仕候者ニシテ決シテ暴
行仕候義ハ無御座候処十分拙者等ニおゐて保証仕候条実情御諒
察被成下願意御聞届被下度此段奉願上候也

江木 衷

明治十六年十二月廿五日

高橋捨六

石井常英

坪野平太郎

㊦

(後略)

(欄外注記1)

〔送達済〕

(欄外注記2)

〔送達済〕

〔明治十六年十月二十七日事件書類〕㊦M6〕